

令和7年4月1日

令和7年度 荒川区立第一日暮里小学校 学校経営方針

校長 猪瀬 賢一

■荒川区学校教育委員ビジョン

○中長期目標

「未来を拓きたくましく生きる子どもを育成する」

○中長期目標を達成していくための方向性

【方向性1】 子ども一人ひとりのよさを伸ばし、学力を高める

【方向性2】 多様性を尊重し、豊かな感性と創造力を育む

【方向性3】 基本的な生活習慣を形成し、健全な心身を培う

○「荒川区学校教育ビジョン」の実現に向けた6本の施策の柱

- (1) 夢につながる主体的な学びを推進する
- (2) こころとからだの健全な育成を図る
- (3) 体験的な学習活動をとおして、よりよい未来社会を築く
- (4) 教師が育つ学校をつくる
- (5) 学校・家庭・地域が強いスクラムを組んで子どもたちを育てる
- (6) 良好な教育環境と体制を整える

○第3期の重点事項

- (1) 教員の働き方改革の推進・徹底
- (2) 良好な教育環境の整備
- (3) ICT 機器等を効率的に活用した情報教育の充実
- (4) 体験学習の一層の充実、家庭学習・補充学習の推進
- (5) すべての子どもたちが安心して学べる機会の確保
- (6) 「荒川区豊かな心を育む読書のまちづくり条例」の制定を踏まえた読書活動のさらなる充実

Ⅰ 第一日暮里小学校の教育目標と学校経営方針

「チャレンジする子」

この教育目標達成に向けて取り組み、児童に社会の中で夢をもって生きていく基礎を身に付けさせていく。そのために「高い志をもたせ、失敗をおそれず行動できる子を育てる学校」「読書を通して子供に考えを深めさせる学校」を目指す学校像とする。

2 目指す児童像

○もっと高く⇒「高い志をもつ子」

- ①見通しをもち、考えて行動する。
- ②これまでのやり方にとらわれず、自分で考え工夫する。
- ③最後まで粘り強く取り組み、自分で決めたことを諦めずやり遂げる。

○もっと広く⇒「親切心をもって広く人と関わろうとする子」

- ①意識を自分から周りの人に変えて、人が喜ぶことを考えて行動する。
- ②見返りを求めず、人に親切にする。
- ③親切にしてもらったことに対して「ありがとう」を言う。

○もっと深く⇒「自分のため人のために深く学ぼうとする子」

- ①積極的に人の話を聞き、考えを深める。
- ②意欲的に本を読み、知識を増やしたり、考えを深めたりする。
- ③失敗をおそれず挑戦し、体験を通して考えを深める。

3 教員の指導

- ・単元全体及び1時間の見通しをもたせる指導をする。
- ・発達段階に応じた課題を設定し、個に応じた解決方法を指導・助言する。
- ・自発的に家庭学習に取り組ませる指導をする。
- ・最後まで諦めずに取り組ませるよう、指導・助言する。
- ・人権感覚や人権意識を高め、自分も友達を大切にする指導をする。
- ・丁寧なあいさつと「ありがとう」を自然に言えるように指導する。
- ・学級・学年・学校にいる皆と共に生活しているという意識を高める指導をする。
- ・人に親切にする指導をする。
- ・単元計画の中に必ず話し合いを取り入れて指導する。
- ・誰もが考えや気持ちを安心して発言できるように指導する。
- ・発達段階に応じた読書を推進する指導をする。
- ・失敗を恐れず挑戦させ、体験重視の指導をする。

4 今年度の指導の重点と具体的な取組

(1) 【もっと高く⇒「高い志をもつ子」の育成】

- ①発達段階に応じて課題設定をし、解決方法を考えさせる授業の実施。
 - 発達段階に応じて、子供たちに課題を設定させ、学習に取り組ませる。
 - 発達段階に応じて、課題解決に向けて、子供たちとともに学習計画を立て、学習に取り組ませる。
 - 解決方法について、諦めさせないよう個別に指導・助言をする。
- ②見通しをもたせた授業や行事の実施
 - 単元計画を子供たちに示して授業を行う。
 - 45分の流れを子供たちに示して授業を行う。
 - 当日から逆算して、いつ、何をするのか予定表を子供たちに示して行事に取り組ませる。
- ③情報活用能力向上の推進
 - タブレットタイム（金曜の朝時間）の大まかな計画（月ごと、学期ごと）を示し、取り組ませる。
 - 子供たちが、スタディサプリ、スマイルネクスト、Yomokka など日常的に使いこなせるように指導する。
- ④英語教育の充実
 - 全員が発話する授業（個で言わせた後に一斉で言う）を実施する。
 - 複数教員がいるときは、少人数グループでの授業を展開し、発話を増やす。
 - 日常的にNEAに英語で積極的に話しかけるように指導する。
- ⑤家庭学習の充実
 - 発達段階に応じて、宿題の出し方を工夫する。（例 一週間で 三日間で）
 - 「宿題+ α 」を実践させる子供を増やす。
- ⑥群読の推進
 - 高村光太郎の詩を暗唱させ、集会や学校公開等で群読を披露する。（各学年で詩を決定）

(2) 【もっと広く⇒「親切心をもって広く人と関わる子」の育成】

- ①学校行事を通して親切心を育む
 - 全校遠足では、上学年が下学年を思いやって行動させる。
 - 運動会では、低・中・高学年での活動を多くし、上学年が下学年に助言する場を意図的に設ける。
 - 宿泊行事では、すすんで協力し合えるようにする。
 - 創立140周年行事を通して、おもてなしの心を育てる。

②特別支援教育の充実

- 前期に1回、後期に1回、特別支援教育の理解を深めるために授業を参観する。
- 障がいについての理解促進のため、学級活動や特別な教科 道徳、総合的な学習の時間等で年に1回以上、授業を実施する。

③礼儀を重んじる教育の推進

- 儀式的行事や朝会で、話の聞き方、立ち方、座り方を指導し、身に付けさせる。
- 止まってあいさつができるようにする。

④地域人材活用の推進

- 地域の方々等のゲストティーチャーを積極的に招聘した授業を展開する。
- ゲストティーチャーと関わらせる中で、意図的に「ありがとう」を言わせる場を設ける。

⑤異学年交流の充実

- たてわり班遊び等では、6年生が下学年に親切に接し、下学年は6年生に感謝の言葉を伝える指導をする。
- 幼稚園、保育所も含め、異学年との交流を積極的に設け、共に生活する意識を高めるとともに、下学年に親切にする体験をさせる。

⑥学級活動の充実

- よりよい学校(学級)生活するための課題を見付けさせ、解決に向けて話し合わせ、協働して実践させる。

(3)【もっと深く⇒「自分のため人のために深く学ぼうとする子」の育成】

①安心して話合いができる学級づくりの推進

- 最後まで人の話を聞かせる。
- 発言するときのルールを徹底する(指名されたら返事をし、発言する)。
- 話す人の方に体を向けさせる。
- 人の傷つくことを言わせない。

②話合い活動の充実

- 相互指名を取り入れるなどして話合いを活発にし、人から学ぼうとする。
- 話合い後、振り返りをさせて自分の変容に気付かせる。

③読書の充実

- 推薦図書を計画的に読ませる。
- 家読を推進する。

読後、感想や意見を表出させ、考えを深めさせる。

④体験学習、体験活動の推進

実際に見たり、行ったりする学習や活動を積極的に取り入れる。

体験後に振り返りをさせ、学びを深めさせる。

⑤失敗経験を生かす指導の推進

失敗経験から何を学んだか振り返らせる。

失敗したことを生かして、意図的に成功体験をさせる。